

令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位の	目標値	本年の	実績値	本年の	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)
392014_高知市	①学校運営上の課題	教職員の時間外勤務の是正	時間外業務従事時間数月平均45時間以内の市内教職員が63%である。	<ul style="list-style-type: none"> 学校や市長部局等と連携をとりながら、地域学校協働活動推進員を中心とした、地域学校協働活動の推進と教員の業務負担軽減を同時に行える体制づくりについて支援を行った。 PTA、青少年育成協議会等の地域の関係者が学校の特別活動教室などを利用し、学力向上、学習習慣定着を目的とした学習支援等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、家庭、地域、行政への学校運営協議会や地域学校協働活動推進員など制度の周知・理解により、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。 市内の小・中・義務教育学校に放課後等学習を補助する支援員を派遣し、教員の業務負担軽減を図る。 放課後や週末等において、子ども達へ学びの場や様々な体験活動を行う放課後子ども教室を実施することで、子ども達の学習習慣の定着と学力向上を図っていく。 	学校・家庭・地域の役割分担の明確化により、地域との協働が進み、教員の業務負担が軽減する。	時間外業務従事時間が月45時間以内の教職員の割合	63	%	85				
392014_高知市	①学校運営上の課題	いじめや不登校など生徒指導上の課題への対応	<ul style="list-style-type: none"> 本市における長期欠席・不登校の出現率は、全国と比較して高い現状がある。 学校には登校できるが、自分の教室に入りづらい生徒について、別室で対応している学校もあるが、個々の状況に応じて登校する時間が異なるため、生徒のみで学習する時間があり、継続した支援につながりにくい。 	令和2年度からモデル校として中学校1校を指定して「校内適応指導教室」を開設し、専任教員を配置。その他の学校では、空き教室等を利用して、養護教諭や管理職などが時間調整しながら対応してきた。	<ul style="list-style-type: none"> 中学校に「校内サポートルーム」を開設し、特別支援・共生社会サポーターとして支援員を配置して、地域の人材等を活用した学習支援や相談活動を行う。 学校・家庭・地域が連携・協働して、子どもの教育活動を支援する仕組みづくりの推進を図る。 	校内サポートルームにおいて、個々の状況に応じた学習や相談支援を行うことで、教室に入りづらい生徒が安心できる居場所が確保され、設置校における長期欠席の生徒数が前年度より減少する。	設置校における30日以上欠席生徒の出現率(出席停止・忌引きを含む)	12	%	11				

※行が足りない場合は、非表示になっている行を再表示してください。